

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年3月18日

学校法人小泉学園 東京いずみ幼稚園

1. 本園の教育理念・教育方針・教育目標

【教育理念】

幼児期に適切な教育を与え、優れた人格を育む

【教育方針】

①適時教育の充実

年齢や発達に応じて教育内容を豊富にし、適切な指導法で子供が主体的に活動に取り組めるようにする。

②チームティーチングの実践

クラス担任を中心に、専任講師、担任交替（年に数回、一週間程度）、外部機関などが連携協力し、きめ細やかな指導を行う。

③年間行事の活用

年間の諸行事を活用することで豊かな生活体験の場を与え、幼児の活動意欲と技能の向上を図る。

【教育目標】

- ・健康な身体
- ・素直な心
- ・豊かな感性
- ・優れた知力
- ・温かい友情
- ・揺るぎない自立
- ・創造的な協働

『いずみの子』 ※園児に教育目標を分かりやすく伝え、皆で唱和する訓辞として制定

- ・強い体と心を持つ。
- ・仲良く遊ぼう。
- ・よく考えよう。
- ・豊かな心を持つ。
- ・今日も一日元気に過ごしましょう。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園が掲げる教育理念・教育方針のもと、教育目標の達成を目指し、子供の育ちを一番に考えた質の高い教育を実践することを目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 教育課程・カリキュラム理解を深め、実践力を高める	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で4・5月が休園となり、例年とは異なるカリキュラム編成となった。しかしながら、夏休みの短縮や祝日の登園など教育機会を確保した結果、例年と同様のカリキュラムを消化・完遂することができた。 ・担任交替や年間行事でのクラスの垣根を取り払った活動の展開などを通して、教育課程ならびにカリキュラムの理解を深めることができた。
2 教育の質向上のために、園内・園外研修を充実させる	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修のいくつかはコロナ禍により中止となってしまった。また、姉妹園での研修は、年度後半から限定的にしか行えなかったが、今年度の状況では止むを得ないと考える。一方で、オンラインでの研修や、姉妹園とともに保育の動画を共有し、相互の学び合いの機会を設けることができた。

			<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修は、園の方針に基づいて、適時教育に関する知識や技術向上に資する研修を計画的に実施した。特に担任が日常的に担当する漢字活動・MS活動・アイデアマラソン研修を継続的に行い、技能の平準化を実現した。
3	教育・保育無償化への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに自治体により事務手続きの変更などがあったが、昨年度と比較すると混乱なく対応できた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	上記の評価項目については、概ね成果を挙げることができた。今後も、園全体として自己評価に取り組むことで、園運営の改善を継続することを確認した。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…あまり成果がなかった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

課題項目	内容・具体的に取る方法
1 教育内容の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ研修や振り返りを通して、指導法の更なる改善を図る。 ・教育内容について検証を行い、教育効果の高いエビデンス（科学的根拠）ある教育方法に磨きをかける。
2 教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹園との合同研修や職階に応じた研修を実施し、学年や職階を跨いだ教職員間の協力体制を一層強化する。 ・各教職員の特性を踏まえて、保育技術の平準化と適材適所の配置の両面を活用し、教師としての能力向上の機会を創出する。
3 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害等の緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアルの充実と教職員の意識向上・行動実践を図る。 ・園内環境を点検し、必要に応じて修繕を行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・園長先生以下、教職員の熱心な指導のもと、子供達の日々のびやかに成長していく姿が見られた。
- ・園の掲げる教育理念・教育方針・教育目標を実現するために、具体性のある教育方法を開発・実践することが園全体で共有されており、それを支える教職員の資質向上にも努めていることが窺える。
- ・特に今年度はコロナ禍により休園が2ヶ月続いたが、カリキュラムの動画配信や課題の送付などにより、家庭で幼稚園生活と同様のことが行える環境を提供して頂いた。また、園行事についても、止むを得ず中止となったものもあったが、大半は感染症対策を取りながら開催して頂き、親子共に貴重な機会となった。このことから園が理想とする適時教育を具体化していく努力が感じられた。
- ・今後も、「いずみ」らしい子供の育ち第一の園づくりを継続し、更なる発展を願いたい。

東京いずみ幼稚園学校関係者評価委員

佐藤 弘子

矢澤 憲治

河野 吉孝

